大阪歯科大学 O.D.C.

兵庫県校友会報

發行所
大阪歯科大学
兵庫県校友会
西宮市南郷町三
編集兼發行人
磯島吉之祐

大歯校友会臨時総会並に新入会員歓迎会

晩秋の神戸に開催

昭和二十八年度大阪歯科大学校友会臨時総会並に新入会員歓迎会は、十一月二十九日秋晴れの神戸市生田区社会事業会館大会場に於て盛大に開催された。

此の日校友会の理事、幹事と称する公僕達は早朝より同会館に出勤し、テーブルを並べるやら弁当の準備、さては酒の燗、或は室内の装飾。演芸の用意等々……秋冷の候も何のその上衣を脱いでの働き振りはこの人達の平常の先生姿を拝見致し度い程の涙ぐましい限り。

その甲斐有つて十時半には純白の布に蔽われた清麗な受付、煖かく保温された出演者控室、五色のテープに美しく飾られた会場、いつ何時でも始めて下さいと待機する料理等が何とか整備された。

定刻十一時に十分前、禿げた頭を撫で乍ら入つて来る先生、お髭の濃い人淡い人、若い先生、中年の先生、続々と到来する先生、何の顔も此の顔も実に明るい楽しい顔「イヨオツ！」と掛け合う叫び何の声も此の声も実に嬉しい懐しいの声、此の顔と此の声こそ公僕達に取つても何よりも愉しい犒らいの言葉だつた様だ。

あちこちに雑談と哄笑の花が咲き紫煙が細目に開けられた窓より美しく澄んだ秋空に舞い上つて行く、ぽつかりと浮んだ白い雲は此の日を祝福するアクセサリーか？

軈て十一時三十分、何時に似合わず取りすました磯島理事の司会に依つて総会が開かれた。続いて伊東副会長の開会の辞。

壇上に巨躯を持ち上げた同氏は終始和やかな笑顔に遠路よりの集いを犒らい、本会の盛大と母校の隆祥を祈つて壇を下る。

平常同氏の硬骨漢振りを知る人々に執つては不思議な程のニコヤカさ、之も皿を分ち合つた者の会なればこそと一層会の雰囲気を温かにした。

次に議案として定款一部改正の件が提出され、現在まで本会は大阪歯科大学兵庫県支部と云う名目で有つたのを大阪歯科大学兵庫県校友会と改正され、其れに従つて支部長、副支部長等と云う名は大阪歯科大学兵庫県校友会長及び副会長と変更される様になり、本会に一段の意義と権威を与える様になつた。

この改正案の説明には中堅の雄永津理事が当り、議長には阿部会長が選出された。続いて前役員として本会を現在の隆盛に導いた小野厳氏、高木馴氏、大浦波夫氏、澤井三代次氏、村井俊郎氏等に阿部会長より感謝状と記念品が贈られ、全員の拍手に迎えられて小野氏が代表して答辞を述べた。

続いて県歯科医師分会より校友石岡事務理事が祝詞を述べ、亦来賓として遥々母校より出馬された内村教授が懐しい姿を壇上に現わし挨拶をされた。

最後に温顔其物の室副会長の静かな閉会の辞を以て総会を終了した。

引続き前田利金理事の紹介で、本日校友の為めわざ〳〵GC研究部長の手塚氏が「臨床歯科に最も必要な話」と題してアマルガムとセメントの合理的使用法を講演され、多大の知識を收得出来た事は此の日の大きな收穫で有つた。

小憩の後、同会場は袂を脱いで忽ち「新入会員歓迎会場」と変貌した。

時こそ来れと堅唾を呑んで待ち構えていた校友の前に、之れ亦待ち構えていた遠谷幹事が壇上に現われた。

彼の引き締つた口も此の日ばかりは紐が緩んだか臨機応変縦横に飛び出すユーモアな司会振りに総会と講演に幾分とも肩の凝り始めた人々の気分を一掃して、満場を爆笑と交歓の坩堝へと誘つて行つた。

弁当が配られ、酒が注がれている間に早速と余興の演芸が始められた。

先づ最初に磯島理事の長女洋子ちゃんのモダンバレー「金と銀」そして「忘れな草」又洋子ちゃんの友人勇内孝子ちゃんの日本舞踊西川流の「黒田節」。「おてもやん」「お七人形振り」といづれも小学校三年生、四年生の可愛いお嬢ちゃんの精一杯の踊りに、満場は微笑と声援の拍手の波に蔽われ会場に一段と和やかな風を送り込んだ。

踊り了つた両嬢に之れ又二人のお嬢ちゃんが美しい花束を抱えて舞台に上つて来た。此の日、わざ〳〵声屋から来て下さつた小野前会長の愛嬢である。期せずして可愛らしい少女の交歓が舞台にぱつと花が咲いた様に明るい。

飲むにつれ談るにつれ、酔うにつれて次から次へと遠谷幹事の口に追われて出て来る余興も愈々本物のプロの出演となり、奇術あり慢才あり歌謡あり、そして奇術の助手宣敷く飛び出し本県専務石岡氏が百円札を焼かれ、間違つて磯島氏の歯を抜いた時の様な顔の茶番劇も折りまぜて興趣満点!!徳永副会長の開会の挨拶通り、正に胸襟を開いて時の過ぎるのを忘れていた。

軈て井上副会長の閉会の辞に依つて愉しく過した校友との交歓も終宴を告げ散々伍々と秋宵の一とき刻を惜しみつゝ或は亦同級生達と二次会へのスケジュールを楽しみつゝ、「又逢いましよう」と握手を交し乍ら薄暮に一きわ美しい神戸の街々へと会場を後にして行つた。（磯島記）

写真（上）は番組に魅入る校友は面々

写真（左）は磯島洋子嬢のモダンバレー

写真（右）は勇内孝子嬢の日本舞踊

会場ルポルタージュ

宴酣となる頃、伊東栄副会長殿如何にと見てあれば会場廊下の片隅にて、こわ如何に、人も知る豪傑伊東氏がお燗番をして御座る。曰く「僕は飲めんからね……おい君、これどうや、もう煮えてるのと違うか？」

伊東先輩近頃とみに良い親爺になられました。

会場準備の最中

「おい寒いぞ控室が……」

「岡田の所からストーブを持つて来い」

「おい紙がないぞ」「岡田の所から……」

「おい○○がないぞ」「岡田の所から……」

近いばかりに岡田一三歯科の家財が半分以上無くなつて近所では差押え品の徴取が始まつたと専らの噂とか……。

兄弟の親密さに

会長　阿部　勉

此の度兵庫県校友会報を発刊する運びになりました事は、校友会発展の一証左として誠に御同慶に堪えない次第で御座います。

編集に就て一方ならぬ御努力を頂きました、村井氏磯島氏、両氏並に寄稿して頂いた校友諸氏に厚く感謝申上げます。

校友会の運営方針の一つとして役員は県下隅々迄出向き懇談申上げ、会員の声を直接聞きたい、頭でなく足で会の運営を図りたいと考え、現在迄努力致して参つたので御座いますが、之の許される範囲には限度がありまして、又校友の方にも色々御都合があり、出向いた際にも御会い出来ない方もあり、遺憾に存じていた次第であります。

何んとかお互に完全に意志を疎通し合う方法はないものか、と考えておりましたが、結局陳腐かも知れませんが、会報を発行すれば校友の手許迄必ず届き、編集方法にもよりますが、やゝ目的に副う事が出来るのではないかと考えた次第であります。

以上の趣旨からこの第一号を発刊致す事となつたのであります。何分初めての事ではあり、準備不十分の為、自慢の出来る出来栄えではありませんが、皆様の御手許に御届け致します。御批判御叱責賜わらば幸と存じます。

御承知の如く、兵庫県校友会は会員数六百優に京都府歯科医師会級の構成会員であります。それに地域は北は城崎方面日本海から、南は淡路方面四国に接する膨大な地域でありまして、会員が心から親睦結束を図つてゆくには、可成困難があるのであります。

然らば如何にすればよいか、答は簡単であります。親睦を図り易いような会員数と、地域にすれば良いわけであります。そこで昨年の臨時総会に於て、定款の一部改正を致しまして、大歯校友会兵庫県支部は兵庫県校友会と名を改めその内七つの分会に分け、各分会の内を又地方歯科医師会単位に支部を設ける事、と致したのであります。

即ち、支部は地方歯科医師会単位ですから、多くて二三十名程度で、主としてリクリエーションにより親睦を図つて頂けば、心と心の友愛による会合が出来ると思うのであります。

之が兵庫県校友会の基盤となる細胞なのでありますが、之丈では細胞と細胞との連繋と云うものがありませんので、分会が講演、リクリエーションその他事業によつて、之を連繋結束せしめる様に致したのであります。

又兵庫県校友会本部は之等分会と連絡を緊密にし、講演会等共催すると共に、兵庫県全会員を対象として、講演会或は親睦会、会報発行等により、大きく之をまとめてゆきたいと思うのであります。

現在迄に分会の結成されております分会は、但馬分会、播磨分会、神戸分会、阪神分会、尼崎分会でありまして、残る淡路分会、丹波分会も近く結成せられる筈であります。支部の方は、結成されております処も相当ありますが、未結成の処も之又可成あります。出来得れば一日も早く結成して頂くならば幸と思うのであります。

この様に組織を細分致すのも、要は同じ学舎に学びし同窓は、心と心と結合しお互に助け合えるような、血の通つたものと致したい念願からでありまして、いやしくも支部と支部、分会と分会とが競走し合う様な事は、寸毫だにあつてはならないのであります。目的は会員の親睦にあります。宜敷くこの点によく思いを致され、円満なる支部分会間の結合にも御留意を御願い申上げたいと存じます。

兵庫県校友会本部の役員は、一心同体となり、目下懸命の努力を及ぼす乍ら致しております。然し会員の皆様としてあゝしたら良かろうに、こうしたら良かろうにとお考えになる事も多々ある事と存じます。どうぞ、そうした事柄はこの会報を御利用になり、ドシ〳〵御寄稿御注文願いたいと存じます。会員の貴重なるお声として我々の指針とし、一層の努力を致したいと存じます。

次号は八月一日頃発行の予定でおります。七月の十日頃迄に何んでも結構です遠慮なく御投稿願います。又分会、支部の幹部の方々は分会、支部の現況、会員の動静等を是非御寄せ下さい。

この会報は、単に我々役員の機関誌と致したくない考えであります。皆様で育てゝ頂きたいと存じます。御協力を切に御願い申上げます。

以上発刊に当り、一言御挨拶申上げる次第で御座います。

（写真は阿部会長）

× × ×

神戸分会の再建成る

各地に支部結成

本県に於て常に主動的に活躍していました神戸分会も、終戦と同時に影をひそめすでに九年を経て参りましたが、兵庫県校友会の勃興と共に再興の機運がほうはいとみなぎり、遂に昨秋神戸在住の役員諸君の努力により復興再出発することになりました事は誠に喜びにたえない所であります。尚その上明石市が地理的の関係により神戸分会に加入せられ、きん上更に花を添えた感が深いのであります。

終戦後一早く発足、着々その基礎を固められ、ますます発展の途にあり兵庫県校友会（昨年の総会に於て兵庫県のみ兵庫県支部を兵庫県校友会と称すことになりました）の分会組織のモデルとなられた播磨分会、但馬分会の校友諸君の結束力を見習い、最近再建せられた阪神分会（以前は東部分会と称せられ、常に神戸分会ときん密な連絡のもとに常に行動を共にしていました）と、すでに結成なつた尼ケ崎分会、尚続々結成されつゝある丹波、淡路、各分会と共に本年度は校友会本部指示に従い、諸種々事業を計画実行いたしたい存念であります。

神戸分会も他の分会同様各区に支部（明石市は明石支部）をおき須磨支部は昨年華々しく総会を開かれ発足せられ、次いで生田支部葺合支部と続々発足他の支部も今春には大体出揃うのではないかと思います。

尚本年は分会最初の総会を開き親しく皆様と共に語り合う機会を是非持ちたい存念でございます。

左に神戸分会出身の県歯医会校友会、その他の、公、役、職員を御紹介いたします。

（伊東栄記）

＝本年度総会開催＝

本年度総会を次の通り開催致しますので万障御繰合せの上御出席下さいませ。

日時　五月二十三日（日曜日）午後一時

場所　社会事業会館（トーアロード）

議題

一、庶務報告
一、会計報告

議事

一、二十七年度決算の承認を求める件
一、二十九年度予算案

協議事項

一、会費徴收方法に関する件

懇談会

午後五時より第一楼において行います。お誘い合せの上御出席願います。

会費　五〇〇円

県関係

竹中　恒夫　兵庫県歯科医師会長
県歯科医師社会保険協力会長、
県歯科医師共済会理事長
石岡　淳三　県歯科医師会専務理事
大浦　波夫　県歯科医師会理事、
国保審査員
野田　一郎　県歯科医師会代議員
清水　省吾　県歯科医師会代議員
県歯科医師社会保険協力会専務理事、県歯科医師共済会理事
右近　示　県歯科医師会代議員
歯科医師会長（葺合区）神戸市会議員
北野　信治　県歯科医師会代議員
津田　象治　〃
梶　寿一　県歯科医師会代議員
歯科医師会長（兵庫区）
釜田　彰介　県歯科医師会代議員
小笠原専一　〃
平崎　博文　県歯科医師会代議員
徳永　明　歯科医師会長（東灘区）
前田　次郎　県歯科医師社会保険協力会常務理事、保険審査員
本多　敬男　県歯科医師社会保険協力会常務理事
清水　方政　県歯科医師共済会理事
角南　依一　〃　神戸市会議員
前田　龍夫　保険専任審査員
後藤憲次郎　〃

校友会関係

伊東　栄　副会長（葺合）
徳永　明　理事（東灘）
灘区　岡田　輝雄
葺合区　磯島吉之祐、前田利金、細川時之
生田区　岡田一三、永津良三
兵庫区　高橋安一
長田区　塩谷藤雄、釜田彰介
須磨区　島原利一
明石市　柏木武
幹事
東灘区　野田一郎
灘区　遠谷喜信
葺合区　上村茂夫
生田区　矢頭順太、寇坂次夫、内海利正
兵庫区　磯田次男、崎西幸男
長田区　志賀久清
須磨区　小笠原専一
明石市　中村光太郎、脇屋貞行

学長も遙々出席

——但馬分会結成式——

暮れ月の下旬と云うのに、合オーバーも脱ぎたい位の暖かさ。

兵庫県支部の本年度の事業計画として地方各会員諸兄と意志の疏通を計る事が最大急務であるとの結論から、恰度但馬分会が十一月廿九日に総会を開くと云うので、此の機会を逃してはと豊岡の岡寿雄会長と打合せの上、十一月廿八日阿部会長、石岡本県専務理事、大浦編集部長、溝井会計理事、それに小生と一行五名、大浦部長の愛用車プリムスにて石岡君の家へ集合の上、一時頃神戸をあとにする。

姫路の白鷺城を左に見て北上し途中に点在する各校友及び地方同業の有力者の宅を訪問して会談しつゝ夕べも暗くなつた頃城崎に到着する。

生憎土曜日の事とて各旅館は満員の為め再び車の人となり、校友河原氏の紹介で、共に日和山の宿に赴き、態々豊岡より車を飛ばして来てくれた岡会長等と明日の打合せをする。

岡君明日病院の大運動会に委員長として采配を振らねばならぬ為め、色々準備のある事とて早々に帰らる。

昨晩宿の座敷より見遙るかす一葦気帯の彼方ウラジオであり、ハバロウスクであろうと未帰還の方々に思いはせつゝ、おりからの満月であろう美しい日本海の臨景に盛無量で寝についたのに、どうであろう我々は、波の音に混つて激しく降つている雨の音に眼を覚された。

変り易いとは聞いていたが、昨晩あんなに良い天気であつたゞけに其の急変には全く驚いた。

而し其の変り易い天気が幸いして我々が旅館を出る頃は雨もすつかり晴れ上つて全く上天気になつていた。

大浦部長の車で日和山をあとに城崎に向い、橋本旅館に入る。

既に但馬分会の校友多数集合され、分会としての会談を終つて我々を待つていられた。

午後の汽車で飯塚学長と柳生教授のお二人が到着された。

態々母校より学長をお招きした但馬分会の方々の師を思う尊い気持に胸をうたれると同時に、此の様な遠方まで老躯をさげて自ら出席された学長の心づかいにも自頭が熱くなる思いであつた。

宴席の始めに阿部母校友会支部長より今日の催に対するお礼の言葉と今後校友会の進む可き道に就いて皆様の御協力を願う意味の話があり、続いて学長より母校の近況に関して御親切な話があり、語られる言葉の中に昔先生より講義を受けた時にくらべて全く円熟した話術、そして完成された若師の心境に廿五年以前と少しも変らぬ熱と力があふれているのに全く頼もしい感じを受けた。

話を終られた先生の瞳は親しみに輝いている様に見られた。

其のあとを柳生教授が学長の話にフェンする様な御挨拶によつて充分母校の歩んでいる道を知る事が出来た。

神戸の近くに住んでいる我々であるのに母校の近況に就いては余り多くを知らない。ましてや遠く離れては今日の御説明は腕につかえているものが一度に下つた思いであろうと分会の方々と共に私も一しお嬉しく思つた事であつた。

そのあと石岡専務理事より竹中会長の参議員立候補の事に関して今迄の成行を話され、今後我々の歩む可き道を明示され、何としても竹中会長を次回の選挙には我々業界の為め、我々の名誉にかけても是非当選させねばならぬと決意をあらたにした事であつた。

大浦編集部長よりは校友でないと話されない様な健康保険の取扱いに関する西方山の話があり、其の実のある内容に校友諸兄も今日一日の会合が皆遠方より此の湯の町城崎に集られた方々だけに決して無駄な日曜日でなかつた事を強く感じられた事と思い、小生等も遥々会合に加わつた事を心からよかつたと思つた。

終つて記念撮影が校友の方々によつて行われ、和気藹々の裡に今日の会合も無事終了してそれぞれ帰途についた。

岡会長は遂に会合には最後まで間に合わず姿を見せなかつたが、豊岡の病院では重要なポストにあり、彼の存在を高く買われている事と思い、彼の健在を祈つた。

稿を擱筆するにあたり、本日の会合にお招きにあづかり、厚いおもてなしを受けた事に対し但馬分会諸兄に御礼を申上げると共に、色々宿舎等の事で心配をかけた河原先生始め其他の方々に厚く御礼を申げる次第です。（伊東）

隨想

五回生　中筋佐一

春は眠くなる。猫は縁側でネズミを取る事を忘れて、昼寝して居る。

ボツンボツンと間をおいて来る患者に苦虫をかんだような面して応待している。

多分心の中ではうるさい。むしろ一束になつて来たらよいがなあと思つているらしい。

実に面倒臭い。それも此れでお願い出来ませんかと下から出られるとOKと心よく返事をせねばならん。此の様な時節が来るとは誰が予想したでしょうか。

三十年前の昔を顧みて治療代大枚三十銭それでもあすこは高い、此処は安いて金高の事ばかり言われた時代を思い浮べて吾々の方も随分変つたものです。

でも実は金儲の下手な者は何時の時代になつても仕様がない。

只食う事それ自体に追いまわされている。

金を善る人は矢張り宿命付けられているらしい。

而し考えて見ると過去の二十年余りは空の空であつた事が今日の敗戦劣等国を知つたでありましょうか。

二十年八日が人生の真実の出発点だ。

それでも金に縁のない者は相変らずピイピイ生活。どうかすると年ばかり重ねて、此れでは一生を此のまゝで送るのかも知れんと。

ちよつと近頃はあせりが出て来たが、施す術がない。誰も彼も保険保険でうだつが上らない。只おほめを下さるのは穏面だけです。

後輩の皆様とくとこの点承知でしょうか。

誠意で患者に接し、良心的な技術を与えて十二分の報酬を得る事です。そして自分のフリー。時間を作つて思う存分此の世の春を楽しむ事です。

朝から晩迄患者に追いまくられている様では自慢にならない。政治が好きなら大いに自治体に頭を突込む。何れの場合でも遠慮なく折に触れて時に臨んで己が職分をちよつぴり出して衛生方面の啓蒙を計る事です。

今日何処の避地でも会員ありで並大抵では今日の社会を渡る事が出来ません。

天職は天職としてお互が今少し視野を広げて御覧なさい。経済的知識を養つて下さい。

歯科医は他の事をしてはならない規定はありません。

食うため、生きるための糧をのこすため、お互がもう少し考えて見ましょう。

蝸牛斗争をやめましょう。朗らかにのんびりと暮しましょう。

滝川学長は卒業生に対してよい事を申されました。たゞ程こはいものはありません。

人の悪口は言わないのです。他人をほめる事です。

他人の技術を悪く批判してはなりません。

只誠意を持つて患者に接し真実飾りのないのが最良です。

必ず勝利の冠は戴けます。

かくして人生航路は洋々たるものです。

葬合分会便り

前田利金

神戸の葬合と云えばスラム街の代名詞の様に考えられて居たのは今は昔の物語り。

モク〳〵と立ち上るあの五色の煙、第八突堤迄計画中の港神戸、今や葬合が文字通り神戸のセンターとなつた事は万人の認めるところ。

完全な廃墟から九年此処に日夜奮斗する校友拾有余名、其の数は豊かなれど質に於ては将に県支部の基幹と申しても決して過言では無い。

伊東栄副会長を始め理事三名、幹事一名亦池面第一、第二の林丁田中元たらんと意気益々さかんな右近示細川時之氏等々実に多士済々。

去る如月七日に兵庫会館に於て阿部会長を迎え、但里度葬分会の結成を見た。

分会長には公私共々益々多端の当区会長で有り、神戸市会議員の右近示氏の就任を得て吾々の結束は将に盤石。

最後に終戦以来当区幹事として活躍して来られた森岡弘行君が時も時、丁度分会結成の当夜忽然として他界されました。

前途益々有為の若い君の逝去は吾等校友一同惜しみても余り有るものが有ります。謹んで哀悼の意を表します。

播磨分会便り

内田松藏

播磨分会の発足は昭和七、八年頃で、地区的校友の親睦を主眼に、昔日の播磨国一円を地域として生れた。

当時県下に神戸分会、東部分会あり三分会は互いに連絡を持ち各分会総会には互いに代表を派遣して分会相互の連絡と親睦を計つて居た。

戦争半ばに至つて本部との連絡上分会は自然解消の有様で、戦後に至つて兵庫県支部の活動活発となり分会の必要なきやの状態であつたが、支部総会は毎時神戸市内で開催され播州地方の者には多数会員の出席出来難い状態多く、播磨分会再会の声次第に多く遂いに昭和二十七年六月再会第一回総会を開催するに至つた。初期には会員四十名前後であつたが今日では百十名の多数に成つている。

播磨分会総会には朝比奈校長も再参出席下され母校の現状、将来の見通し等話されたものである。

再会総会には吉崎附属病院長の出席を頂き会員五十名の参加を得盛会を得た。

尼崎分会便り

小寺長藏

一、校友会結束に就いての所感

校友会が結束して活溌に動き出した事は誠に結構な事である。之が直ちに政治運動に関係があるとか、或は学閥云々を考えて面白くないとか解釈する事は余りにも取越苦労である。何れにせよ吾々は母校を愛しなければならない。そして新しく巣立つ後輩の先達者となつて無言の中にも学校の先生から責任を引き継がせられているのである。学校には伝統がある。卒業して何十年経つても学校時代に浸み込んだ伝統は絶対に消える事がない。そして、吾々はこを以つて大いに誇りを感じているのである。此の伝統に対する誇りを直ちに理解し得る者は校友以外には絶対にない。その証拠に同窓会で大勢の同期生に会つた時、誰からも皆共通の香りがするではないか。つまらぬ話が非常に楽しいではないか。テクニツクの相違はあつても方針は十人一様である。誰もが同じ方向に進んでいる事はは一つ解る。伝統に誇りを持つているからである。

校友の少い地方程結束が強固である。之は何れの場合でもある事で、別に不思議ではない事であるが、之と同じ様な意味で卒業して年度が経つ程母校が懐しくなる。校友の少い地方の人が地元の事を聞くと全くびつくりする。即ち校友同志の親しみのないと云う様な事にびつくりする。又年次の古い人が新しい人の余りにも母校愛の少いのにびつくりする。皆同じ様な理論に基くものであるが、要は校友が沢山居れば居る程連絡を密にしてお互に学校の伝統を守り、之を社会に適用して皆が一様の方向に安心して進める様な社会情勢を作り上げるべく努力しなければならない。之は結束より他に道はないのである。

二、尼崎では校友会員五十名で将に全会員の半数である。県歯科医師会の副会長で尼崎の前会長をやつていた奥野半蔵氏（第四回）は数え切れぬ程の役の持主であるが、本年全国にさきがけて誕生した尼崎市々民保険の運営協議会の会長で、市の助役、衛生局長及び市内四百数拾名の医師会、歯科医師会から選抜された十二名の医師、歯科医師審査委員及び被保険者代表学識経験者等二十三名の長として誠に鮮かなる運営ぶりを発揮している。又市会議員河本秀夫氏は目下市の衛生委員長として医療関係者も多数混つている市会議員中より選ばれ、その実行力の伴う熱意ある主張は、絶対に他の議員に非難の余地を与えていない。市民全体に非常に評判の良い事は言うまでもない。又前尼崎中央保健所衛生課長とて、昨年婦人保健所で全国的に有名な塚口保健所が設立され、こゝの総務課長に昇進した遠藤龍太郎氏は数多くの医博、ドクトルを部下にして官公庁の封建性の中にあつて、物の見事に之を突き破つている。然もその腕の冴えは頭髪の薄らぐとは反対に益々止る所なく伸びて行くそうである。其他まだ校友の活躍振りは実に目覚しいものがあるが、紙面の関係もあり省略する。

三、尼崎分会の行事に就いて

1、ギリンビール会社神崎工場見学

昭和二十八年八月八日　参加者二班に分れて約二時間説明を聞き乍ら見学す。その合理化された製造行程及び衛生施設の完備等に感服し、全国的ビールの消費量の多きに一同驚嘆す。

2、総会

右見学終了後ビール会社会議室に於て、庭園の松の緑と紺壁の空を背景にぐつと浮き出す生ビールの琥珀色と白い泡に全身を潤わせつゝ暑さも忘れて楽しく総会を開催せり

1、分会長増田鷹雄氏挨拶

2、吉田西亨元分会長離任の挨拶

3、本校の状況に就いて　多和敏一氏

4、藤井母校々友会新理事の挨拶

5、和歌山県下水害状況調査報告　奥野半蔵氏

6、校友会兵庫県支部の動きに就いて　井上俊男氏

7、座談会

3、会報の発行

昭和二十八年九月校友会々報第一号を発刊す。内容は各種所感挨拶、キリンビール見学記事、竹中氏後援会の記事、論文、会計報告編集部報告、編集あとがき、校友名簿等十六頁。

家族同伴の清遊を計画

明石支部　平崎博文

此の度、県校友会々報が発刊されるに就て何か一筆書くように、と渡された原稿用紙が二枚、何を書くのか、と聞けば何でも良い、と云う。真に困つた。創刊の祝詞なれば、会長、その他のお偉方が書かれるであろうし、美詞麗句を並べて名文を書くような柄でなし今日、明日、と一日延しに延す内に〆切とはなつた。全く文筆生活者のむつかしさがつくづくわかりました。と云う次第。

然し自分も、元々こうした会報の発刊の一日も早からん事を望んでいた者の一人であり、此の会報を通じて、各地の同窓諸君の消息を知り得る事は、誠に喜ばしい事であります。

唯、今後此の会報が、固苦しい文章の羅列をさけ、我々精神年令十二才の会員に親しみやすい物にして頂くよう希望する次第です。

さて次に、明石に於ける同窓会支部の現状を少々申述べて置き度いと思います。支部長柏木武君はその温厚な性格に物を云わせて、全会員から尊敬されて居る人、女性の方へも時々発展しますが、之は支部長として運営上支障にはなりません。

次に副支部長、これは自分の事であまり記し度くはないが、金も無ければ、女も出来ず、と云う淋しき存在。

その他会員十五名。現在明石は明石歯科医師会、新明石歯科医師会と、歯科医師会は二つに別れて居りますが、同窓会に関する限り和気あい〳〵の内に、支部長を中心によく遊び、よく働くと云うのが現状であります。

囲碁に、麻雀に、或は会合の後お互に臨床の経験を語り合つてでは、各自翌日からの臨床の資に供して居ります。今春には、全会員家族同伴で一日の清遊を計画中、或は次の会報にこの記行文を御報告出来るかと思つて居ります。尚明石支部は播磨分会に属して居りましたが、此の度地理的、交通上便利な点等を考慮して播磨分会より転出、神戸分会に転入致しました。神戸、明石の合併より一足お先に、と云うわけ、神戸の皆様にどうぞ宜敷くと、申上げ擱筆致します。

阪神分会(假稱)設立まで

山本清

私にはサア原稿を書け、何時々々までに届ける様にと云われてもおいそれと待ち受けているわけでもなし、ミラーピンセットを手にする様には筆は動きません。とは云うものゝ折角兵庫県大歯校友会誌創刊号〆切りまでには何んとか間に合せねばならんし、日夜頭痛の種でした。

吾々地区の分会は、未だ結成されていませんので会長阿部先生より再三の御鞭撻で居たゝまりませんので、やつとお尻を上げて校友諸兄に呼びかけたわけで、他地区より遅れて立ち上げた事をお詫び申します。実の所二月七日に設立総会を開く準備はしていますが、未だ総会前の事とて会の内容方針に就いては何んとも申上げる術なく、たゞ当地区は分会設立準備行程だけで今回はお許し下さい。何れ分会設立後は会長も確定いたしましようし、会長の御意見も承つてから確たる事を発表いたしたいと存じています。

分会設立準備委員会を第一に開かねばなりませんので、川辺郡、武庫郡、伊丹市、芦屋、西宮市（尼崎市は既に分会結成）各地区の校友会幹事に其の旨通達、第一回会合を二月七日午後西宮北口町で開きました。

川辺郡地区　沢　先生
武庫郡地区　藤尾先生
伊丹市地区　八竹先生
芦屋市地区　溝井先生
西宮市地区　高木馴先生、四方田先生、山本

当日特に御都合を煩して会長阿部先生に御出席願いまして、席上種々御高説を承りました上、西宮市地区が地理的中心の由、西宮地区幹事、専任準備委員をおゝせつかつた次第で、各幹事の御意見を骨子に準備に取りかゝり、校友諸兄の御協力御賛同を得て来る三月七日午後、於兵庫県歯科医師会館母校よりも学長飯塚先生の御臨席を得て設立総会を開く予定になつています。

会長阿部先生外理事高木馴、溝井、小田中諸先生の御指導御援助を得て発会出来ます事を厚くお礼申します。尚各地幹事諸先生及び当地在住の校友浜貴君には何かと御協力下さいました事を紙上をかりてお礼申します。

（二九・二・二五）

編集後記

編集がキチツと行くと、後記の入れ場もないという一例。依而件如。